

# 今、体育・保健体育科で目指したい授業 H26.1.7

-わかる・できる授業を目指す指導者の3つのポイント-

## 1 単元で育むべき目標を明確にしましょう！

わかる・できる  
授業をめざすには  
何が必要？



- 単元でどのような力を育むのか、そのために、どのような指導をすべきか、授業者自身が指導目標を明確にすることが大事です。
- 目標設定では、まず実態を把握することが必要です。自校の「体力向上推進計画」や「体力・運動能力調査」の結果等を活用し、実態の把握に努めましょう。

## 2 育む力と評価の観点のバランスを考え、「単元の指導・評価計画」を作成しましょう！

- 明確となった目標を達成するためには、確実に指導や評価を行うことが重要です。「単元の指導・評価計画」を作成し、見通しを持って確実に実施しましょう。
- バランスよく指導や評価活動を行う上でも、「単元の指導・評価計画」を作成することが有効であり、指導と評価の一体化にもつながります。
- 評価には、評価規準が必要です。評価規準の設定には、学習指導要領解説に示されている〈例示〉や、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』（国立教育政策研究所）を参考にするとよいでしょう。

## 3 個に応じた指導と評価を行い、児童生徒の学習意欲を高めましょう！

- 教科の目標は、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てること」です。児童生徒は、自分がかんばったことを正しく評価されることで、いっそう学習意欲が高まり、運動や健康への関心・意欲につながります。
- 個に応じた指導と評価は、児童生徒の自己受容、自己肯定感を育むことにつながります。
- 個によって、わかる(できる)喜びには違いがあります。出来栄だけでなく、プロセスや、個の目標に応じた上達の度合いを適切に評価することが大事です。
  - ・簡単にわかった(できた)喜び
  - ・努力してわかった(できた)喜び
  - ・成功はしなかったが、コツがわかった(上達した)喜び